

持続可能なソリューションに至るプロセスの枠組み

鈴木 敦

(財) 民間都市開発推進機構 都市研究センター

「つくばエコシティーイニシアティブ (つくばエコシティー構想)」のコアプロジェクトと位置づけられる「つくば3E プログラム」(以下、「T3EP」と略称)と「T3EP の構築」を区別し、後者もそれ自体プロジェクトであることを明らかにしたい。

- 一般に、プロジェクトは、①完成年月日(納期)、②予算及び③求められる品質が事前に定まっている。
- 「T3EP の構築」は、①北海道洞爺湖サミット(2008年7月7日～9日(首脳会合))で公表することが決まっており、策定作業の開始以前に、②予算と③品質に係る定性的又は定量的な目標を定める必要が生じるので、1つのプロジェクトと考えられる。
- 比喩的にいえば、「T3EP」は長期間にわたり便益を発生し続ける建築物であり、「T3EP の構築」は当該建築物の建築である。別の比喩を用いるならば、「T3EP」はコンピュータ・ソフトウェアであり、「T3EP の構築」は当該ソフトウェアの開発である。
- (建築の比喩を続けるならば) 建築プロジェクトに当たっては、プランニング、スケジューリング、積算、コストコントロールすなわちマネジメントが必要になる。
- 一般に、プロジェクト・マネジメント(PM)の3要素は、品質(Quality)、コスト(Costs)及び時間(Delivery)。これらは、「QCD」と総称される。
- 「T3EP の構築」に当たっても、QCDに係る具体的な目標を設定する必要。
- 「T3EP」の品質については、ハイリゲンダム・サミット(2007年6月6日～8日(首脳会合))に先立つ国際交流会議「アジアの未来」晩餐会における安倍首相(当時)の演説「美しい星へのいざない Invitation to “Cool Earth 50”」～3つの提案、3つの原則」が模範となるのではないかと。同演説は、問題提起－提案の全体像－提案1：長期戦略－提案2：中期戦略(3つの原則を提唱。また、「資金メカニズム、エネルギーの取組、その他の手法の検討」を含む。)－提案3：京都議定書の目標達成に向けた国民運動の展開－結び で構成されている。
- 要するに、「T3EP」は、高い内部整合性を有するとともに、外部環境の下で実現可能性及び持続可能性を備えていることを、国際会議場で訴求し、理解される必要。
- 特に、重要なのは、「2030年までに、筑波研究学園都市における温室効果ガス排出量を半減する」数値目標を達成するための戦略である。
- 一般に、戦略は、「力の入れどころ」を特定し、継続的な資源配分の方針を示すものであるから、例えば、“Cool Earth 50”の長期戦略は、①技術革新の開発 及び ②低炭素社会づくり に集中。
- したがって、「T3EP の構築」においても、上記数値目標の達成に向けて、「力の入れどころ」を絞り込む必要。
- 第2の「コスト」は、「T3EP の構築」に係るプロジェクト・マネジメント(PM)をPM専門家にアウトソーシングするか否かにより、大きく異なる。
- 第3の「時間」は、所与。